

## 「21世紀型の資質・能力」をめざす 総合的な学習の時間のカリキュラム開発 —合科的指導に焦点をあてて—

畠島英史（長崎県対馬市立豊小学校）・井手弘人（長崎大学教育学部）

### はじめに

本稿の目的は、「21世紀型の資質・能力」をめざす総合的な学習の時間のカリキュラム開発について、特に「合科的指導」に焦点をあてて明らかにすることにある。

筆者（畠島、井手）は、これまでにも「21世紀型の資質・能力」をめざすために総合的な学習の時間のカリキュラム開発を行ってきた。<sup>(1)</sup> そこでは、総合的な学習の時間のカリキュラム開発のための要素を提案しているが、この「要素」を抽出する過程では、学習指導要領の歴史的・文化的文脈(context)を重視して初期社会科のカリキュラム開発を意識し、さらに、総合的な学習の時間が実施される前から研究開発学校が取り組んできた実践、および、長崎県における先進的取組も含めて分析を進めた。この成果は、カリキュラムと学習方法に関して反映させるべき要素を「カリキュラム開発に必要な要素11ポイント」として提案している。本稿も、このカリキュラム開発方法を基本としているが、このカリキュラム開発研究では総合的な学習の時間のカリキュラム開発に限定して論を組み立ててきており、現在、学習指導要領に定められている他教科・領域との関連を必ずしも明らかにしてこなかった。実際、総合的な学習の時間の目標にも「横断的・総合的な学習や探究な学習を通して・・・資質や能力を育成する・・・」<sup>(2)</sup>とあるように、他教科・領域と関連付けた指導の必要性が意識されている。総合的な学習の時間での学びを他教科・領域で学んだことを生かしたり、逆に他教科・領域での学びを総合的な学習の時間に生かしたりすることが横断的・総合的な学習にあたると捉えている。ここでいう「学び」は、「知識」だけではなく、「知識」を身につけるための「技能」や他へ伝える「表現」をも含んでいる。

これからの中でも生きるために必要な「21世紀の資質・能力」は、総合的な学習の時間だけで獲得できる資質・能力ではなく、他教科・領域においても指導者が念頭に置いて課題設定、問題解決等を位置付ける必要がある。このことは次期学習指導要領の改訂に向けて整理された「論点整理」の中にも「教育課程全体で子供にどういった力を育むのか」という観点から、教科等を超えた視点を持つ」<sup>(3)</sup>ことからも容易に判断できる。すな

わち、これからの中学校教育が目指す方向にも、「21世紀型の資質・能力」をめざし、これまで総合的な学習の時間の中で言られてきた「横断的・総合的」な視点、つまり合科的指導を教育課程全体に反映させていかなければならない。現行の小学校学習指導要領（4）では、「総則」の「第4指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」の（4）に「児童の実態等を考慮し、指導の効果を高めるため、合科的・関連的な指導を進める」とある。各教科・領域の学習内容を児童の興味関心、必然性において結付け、指導していくことで教育効果の向上が期待できると考える。この合科的な指導は戦後、学習指導要領が制定される以前、つまり、戦前の「大正新教育」と言われる時期においてもすでに実践されていた。典型例が奈良女子高等師範学校の木下竹次による「合科学習」である。「合科学習」についての先行研究は数多くあるが、たとえば吉村（1993）は「合科学習」を「子どもが環境との交渉を通じて問題を見いだし、問題を解決する「学習法」の延長にあるもの」<sup>(5)</sup>と捉えている。また、吉村は合科学習を指導した3人の教師の実践を検討しているが、その中で、「例えば、樹木を学習材料として、図画、算術、国語といった各教科の学習を行っている」と具体的な指導方法も示した。木下のめざした合科学習の特長は、児童の生活の中から題材を選び、他教科・領域へ児童の「知」の探究をもとに指導が展開されていったところにある。

しかしながら、こうした「合科」という考え方には、児童中心主義的学習イメージを持たせつつも、国民学校制度（1941～）移行期において、むしろ全体主義教育を助長する「システム」へと転換したことでも事実である。小針（2015）は、柳・川合（1962）の先行研究を用いて、戦時体制へと移行する時期の教育審議会議論過程を分析しつつ、「時局にとって都合のよいところだけを選別（つまり）することで、合科学習は「総合教育」または「総合教授」として、国民学校のカリキュラムや実践に取り込まれていくことになり、「そもそも大正新教育運動の実践成果がなければ、国民学校のカリキュラムは成立しなかった可能性が高かったとみることもできるだろう」とまで述べている<sup>(6)</sup>。すなわち「合科」は、ナショナル・カリキュラム上で意図・再編された「知」を前提とした「教科」と「節合」（articulation）する機能となっている以上、その本質的教育理念とは別の意図がそもそも入り得るという、歴史的教訓に基づいたものであるべきだろう。これは、「ナショナルな」意図を専ら排除せよ、ということではない。児童の生活（圏）にある課題と、教科・領域で意図されるものとを、「学び」の中で調整していく姿勢を教師が貫くということ、さらには、その「学び」が具体的な「人」「もの」「こと」との関係の中で相対化されながら獲得されていくものとして、過程の可視化とともにオープンであり続けること（批判的に省察可能な環境を保つこと）が重要である、ということである。

## 1. 研究の計画

本研究は、総合的な学習の時間のカリキュラムを基軸として、新年度4月から年度末の3月までほぼ1年間の計画として進めた。平成27年4月よりNPO法人離島経済新聞社と連携しながら「うみやまかわ新聞」を協働で作成しているため、年間を通しての計画を年度当初の4月に話し合う必要がある。下記に示す年間指導計画は、新聞づくりの専門家としての新聞社と新聞社から依頼された地域コーディネーター、当該学年の筆者の話し合いによって作成されたものである。

この年間指導計画は4月に作成し、8月、12月の休業中に見直し修正していく。21世紀型の資質・能力を育成するために、教師主導型の「静的」なカリキュラムではなく、児童の実態に沿った「動的な」カリキュラム・マネジメントを指向していくからである。作成の段階から、総合的な学習の時間と各教科・領域の関係において、横断的統合的な関連が考えられた。「21世紀型の資質・能力」が『「生きる力」のより実効性のある要素である。』と定義していることから、各教科・領域での学びが総合的な学習の時間で役立ったり、逆に総合的な学習の時間での学びが、後に各教科・領域等で学び直したりする往還関係と成り得ると考えた。「動的な」カリキュラムを開発していくためには、指導者が児童の思考を見取る必要がある。そこで、児童は各教科の学習ノートに記録するだけでなく、総合的な学習の時間において調べ学習の記録や思考の深まりを示したワークシート、学んだことを日記にまとめるための「イノベーション日記」を書くようにした。これらの記録を参考に教師や児童が思考を焦点化したり、拡散したりして次の活動へつなげるように考えた。

平成28年度 第5・6学年 単元名 「 発信! 『ばくらはまちの宣伝隊』」(全70時間) カリキュラムと教科等との関連																
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
<b>総合的な学習の時間</b>																
Ⅰ 韓国を知ろう(全15時間)		Ⅱ 自分たちにできることを実践しよう!(全40時間)		Ⅲ これまでの学びを形にしよう!(全15時間)												
【課題の設定】①豊小校区にはどんな自然があるのだろう?		【課題の設定】①どんなことが宣伝できるかな?		【課題の設定】①学びを理かめよう												
【情報の収集】②韓国のことを探べよう。		【情報の収集】②新聞づくりのために探し集めよう。 http://www.hanbit.or.jp/		【情報の収集】③これまでの活動を振り返り集めよう。 http://www.hanbit.or.jp/												
③豊区以外のまちで調べてみよう		【整理・分析】④取材したことを整理しよう。 http://www.hanbit.or.jp/		【まとめ・表現】④新聞をつくり、発信しよう!		【まとめ・表現】④これまでの活動を整理しよう		【まとめ】④これまでの活動をまとめよう http://www.hanbit.or.jp/								
【課題の設定】④どんな方法で宣伝したいいんだろう?		うみやまかわノート1次~4次		うみやまかわノート5次~6次		うみやまかわノート7次~8次		うみやまかわノート9次								
【情報の収集】⑤韓国について中間発表をしよう。		【まとめ・表現】⑥韓国について中間発表をしよう。		【まとめ・表現】⑦韓国について中間発表をしよう。		【まとめ・表現】⑧韓国について中間発表をしよう。		【まとめ・表現】⑨韓国について中間発表をしよう。								
<b>教科</b>																
(国語)	新聞基本知識(10時間) 立場を決めて報じよう(10時間)			読み文を楽しく読む(10時間)			おしゃべりを楽しもう(10時間)									
	新聞の特徴と読み方(10時間)			海の人たち(6時間)			ピヨンマウカ(6時間)									
(社会)	大書のくらし(1年) 南北、奈良時代(4年) 平安、鎌倉時代(5年) 安土桃山(4年)			東日本大震災(5年)			対話(5年) 内閣(5年)									
	通さ(4年)			比例化と比較(6年)			食生活と食料生産(5年)									
(理科)	大書のくらし(1年) 南北、奈良時代(4年) 平安、鎌倉時代(5年) 安土桃山(4年)			江戸時代(4年) 明治時代(5年)			アラタキ(4年)									
	通さ(4年)			比例化と比較(6年)			私たちの暮らしを支える植物(5年)									
(工芸)	大書のくらし(1年) 南北、奈良時代(4年) 平安、鎌倉時代(5年) 安土桃山(4年)			世界の音楽(4年)			内閣(5年)									
	通さ(4年)			世界の音楽(4年)			内閣(5年)									
(体育)	大書のくらし(1年) 南北、奈良時代(4年) 平安、鎌倉時代(5年) 安土桃山(4年)			世界の音楽(4年)			内閣(5年)									
	通さ(4年)			世界の音楽(4年)			内閣(5年)									
(家庭)	大書のくらし(1年) 南北、奈良時代(4年) 平安、鎌倉時代(5年) 安土桃山(4年)			世界の音楽(4年)			内閣(5年)									
	通さ(4年)			世界の音楽(4年)			内閣(5年)									
(音楽)	大書のくらし(1年) 南北、奈良時代(4年) 平安、鎌倉時代(5年) 安土桃山(4年)			世界の音楽(4年)			内閣(5年)									
	通さ(4年)			世界の音楽(4年)			内閣(5年)									
<b>生活・行事</b>																
大書のくらし(1年)		大切な言葉(5, 6年)		人のために(5, 6年)		色の形(5, 6年)		自分で描く(5, 6年)		フルマラソン(5, 6年)						
南北、奈良時代(4年)		新聞づくりをする(5, 6年)		自主学習		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)						
平安、鎌倉時代(5年)		新聞づくりをする(5, 6年)		地図		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)						
安土桃山(4年)		新聞づくりをする(5, 6年)		地図		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)						
通さ(4年)		新聞づくりをする(5, 6年)		地図		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)						
大書のくらし(1年)		新聞づくりをする(5, 6年)		地図		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)						
南北、奈良時代(4年)		新聞づくりをする(5, 6年)		地図		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)						
平安、鎌倉時代(5年)		新聞づくりをする(5, 6年)		地図		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)						
安土桃山(4年)		新聞づくりをする(5, 6年)		地図		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)						
通さ(4年)		新聞づくりをする(5, 6年)		地図		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)						
<b>総合的な学習の時間(全単元を繋いで)</b>																
道送		大切な言葉(5, 6年)		人のために(5, 6年)		色の形(5, 6年)		自分で描く(5, 6年)		フルマラソン(5, 6年)						
南北、奈良時代		新聞づくりをする(5, 6年)		地図		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)						
平安、鎌倉時代		新聞づくりをする(5, 6年)		地図		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)						
安土桃山		新聞づくりをする(5, 6年)		地図		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)						
通さ		新聞づくりをする(5, 6年)		地図		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)		新聞づくりをする(5, 6年)						
<b>生活・行事(全単元を繋いで)</b>																
南宮村祭		命を見つめな宿題		平和祭り日		運動会		小体会		ふれあい学習会						
命		命を見つめな宿題		平和祭り日		運動会		小体会		人権集会						
命を見つめな宿題		命を見つめな宿題		平和祭り日		運動会		小体会		命						
命		命		命		命		命		命						
<b>生活・行事(全単元を繋いで)</b>																
命		命		命		命		命		命						
<b>生活・行事(全単元を繋いで)</b>																

図. 1 平成28年度第5・6学年年間指導計画

## 2. 研究の方法

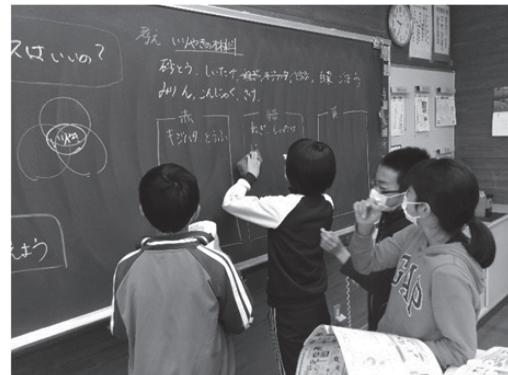
本研究では、総合的な学習の時間における児童が作成したワークシートや「イノベーション日記」を主な調査対象とした。また、主な活動である「うみやまかわ新聞」の作成が終わる段階でまとめた学習の振り返りワークシート及びその発表会と発表後の学級全体でのインタラクションの記録も調査していく。また、必要に応じて児童が活動を進める中で作成した調査データ資料やゲストティーチャーへの手紙など製作物も各教科・領域との関連について分析していく。国語や社会等の各教科では、学習ノートも分析対象とする。また、授業中、児童の発言やつぶやきを記録した板書についても分析していく。これらの記録は児童が主体となって残された記録であるから、そこから見えてくることによって、どのような力がついたのか、どのような学習が生きているのかを質的に分析していくこととした。

## 3. 研究の結果と考察

本研究において「合科的な指導」の成果が大きく見えたのは、以下の3つのケースであった。

### 3-1 郷土料理「いりやき」の栄養のバランス

4月、児童に家庭科の学習の始まりとして、6年生に「いりやきは栄養のバランスがいいのか?」という問い合わせ出した。郷土料理は、前年度に総合的な学習の時間で学習している。また、家庭科では、バランスの良い食事の仕方を第5学年で学習しているので、合科的な指導を行った。



「いりやき」の材料からタンパク質、無機質、ビタミン、カロテン、炭水化物、脂質に分けていった。家庭科の教科書を参考にしながら分けていくと量的を見て、ビタミンやカロテンの食品群は多く、炭水化物や脂質の食品群が少ないと気付く。児童は、そこで「いりやき」の材料には「旬の魚を入れる」と教えられたことを思い出す。「旬」とは、これまでの経験から「脂がのっていること」を知識として身につけており、「旬の魚を使うことによって脂質の摂取を増やしている」と考えていた。ある児童は「鍋物の後は、雑炊にします。」また「私のところは、そうめんやそばを入れます。」と発言した。これは、家庭で「いりやき」をするとき、不足している炭水化物の栄養を摂取するために工夫をしていること、さらに数人が同じような栄養の摂取方法を発言することにより、どこの家庭でも炭水化物を摂取する方法が共通していることに気付き、さらに地域全体としても同じような考え方で一般的に広がっているこ

とにも気付くことができた。児童は問い合わせに対して『対馬の郷土料理「いりやき」は、お米やそうめんを入れることで栄養のバランスが良い。』とまとめるに至った。家庭科で学習したことが食文化から地域を見つめ直す契機となった。



### 3-2 韓国の観光客についての実態調査

### 3-2-1 アンケートの作成

6月、まずは韓国の観光客の増加について調査する計画を立てた。児童は、対象地域を校区でインタビューして調べようとする意識が強かったので、「上対馬町の人々は…」という主語に対して、対象地域の範囲は適当かと問いかけた。すると、児童は町内をインタビューという方法で調査することは距離的、時間的に困難だと判断した。すると、ある児童からアンケート調査という提案があり、全員が納得してアンケートを作成することになった。

児童は、アンケートを作成するにあたって、2班に分けてそれぞれが聞く必要があることを挙げた。それを全体で話し合うことによって、「韓国からの観光客増加に対する意識」「良いと「朝鮮半島との貿易交流の有効性」の5つに焦点化することができた。そして、アンケートで調査対象外からの回答が予想されるため、所在地を確かめる項目を児童自ら追加した。アンケート回答数について、当初、上対馬町の人口から約1/10に当たる600人を目指した。離島経済新聞社との授業の際、アンケートの「必要数」について教師が質問し、後日メールにて回答を得た。メールを児童が見て、必要枚数（標本数）の考え方方に気付く。300人という目標を設定し、町内の商業施設へアンケート調査のお願いを行った。また、協働研究者より「平等性」について指摘を受け、授業で児童に気付かせ、対策を構想・判断・実行させる。児童は、アンケート調査において「平等」に調査するためには、「無作為」で「ランダム」な調査方法が必要であり「意図的」に行わないことを導き出した。計画では、アンケート調査を6月中に終え

<p align="center"><b>対馬と韓国との関係についての意識調査</b></p> <p>私たちを小学校のうちは先生は、最も大切な学問の時間で、自分たちの住んでいる地域を調べ、地域の後に次につなげて、『地域の未来』を創造していきます。</p> <p>これまでの対馬の歴史と人間社会の変遷を地図や地図について見てきました。今は、お題と問題の問題について書いて、『対馬の歴史』と『地域の未来』を記述してもらいます。</p> <p>この問題は、対馬の歴史と人間社会の変遷を地図や地図について見て、『みかみわむね』を作り、地域の未来を考えます。</p> <p>そこで、『対馬の歴史』と『地域の未来』が何で出来たのか、吉野里の歴史とどうつながるかなどとたくさん書いてくれたり、地図や地図について見て、『みかみわむね』を作ります。ですが、2月と3月の令和令和(個人観察者)9人、なぜか個人観察者が8人)といううなづきアンケート投票(投票人が8人)と思われるアノマーク投票(投票したところ)、8人とも3月の3人、(7月3日)の個人観察者投票(投票人が8人)に見えていたことを不思議に思いました。</p> <p>このシート上で「不思議な」とされた人たちの意見を聞いた、「ありがとうございます」という意見が見えていたので、アンケートにご参考ください。(参考) <a href="https://page.knowknow.com/article/1090919.html">https://page.knowknow.com/article/1090919.html</a></p>	
<p>あとはまるごとこの□に○で囲ってください。</p> <p>あなたなら ( 1 年生 2 年生 3 年生 4 年生 5 年生 6 年生以上 )</p> <p>あなたが住む地域は ( 上対馬 ) それ以外の島内 周辺 )</p>	
<p>Q1 今、朝鮮から来た米の実が売っていますが、どう思いますか?</p> <p>(1)とても高く思ふ (2)高めくらう      (3)あまり高く思わない (4)全く高く思わない</p>	
<p>Q2 Q1で「(1)」または「(2)」を選んだ人の理由 (複数回答可)      (1)高いから (2)朝鮮の米が美味しい      (3)ホーリーの税金 (4)輸入税率の利用      (5)その他 ( )</p>	
<p>Q3 Q1で「(3)」または「(4)」を選んだ理由は何ですか? 「複数回答可」      (1)確かに(2)手の代りで (3)確かに(4)お金など      (5)確かに(6)朝鮮の税金の利用      (7)ホーリーの税金 (8)輸入税率の利用      (9)その他 ( )</p>	
<p>Q4 (江戸時代以前に開拓した村と開拓していることによって開拓のためになっていたと思いますか?      (1)開拓している (2)ない</p>	
<p>Q5 制度と韓国を競争をしていたことによって開拓のためになっていたと思いますか?      (1)多い (2)ない</p>	
<p align="center"><b>アンケートにご協力いただいてありがとうございました。</b></p> <p align="right"><b>対馬市立豊丘小学校5・6年生</b></p>	

る予定であったが、アンケート用紙の作成で終わり、7月末までアンケート調査を行った。この学習で、1か月以上かかり、児童はアンケート調査の困難さに気がついた。この学習は、国語科や算数科、社会科とのかかわりが深い。国語科の2領域である「書く」「言語に関する事項」で、自分の思いを分かりやすく相手に伝えることや当該学年の漢字を正しく使うことがアンケート作成過程で要求される。発表会の記録では、「アンケートで断られた」「アンケートを真面目に作った」「(アンケート作りを)3回ぐらい訂正した」と答えている。また、情報メディアを通してアンケート調査や集計の様子と触れる機会が多く、経験知として調査の有効性はあったが、調査用紙の作成やインタビュー調査で困難さを実感したことがわかる。国語で学習する「書く」内容は、相手に分かりやすく、目的をはっきりと示すという高学年の学習内容に合致しており、それを実践的に学んだことで困難さを実感したと判断できる。

また、アンケートの必要数は算数科「割合」の学習の応用である。複式学級のため、総合的な学習の時間は5・6年生で協同的に進めているが、5年生の児童は割合の学習を2学期に学習する予定で、アンケート調査をした時は未習であった。しかし、割合の「○○%」を「経験知」として学ぶことになったほか、社会科の教科書にも円グラフや帯グラフの表記が至る所にあり、「学校知」と「経験知」を往還しながら獲得していく過程が生まれ、アンケート調査を通して、児童は既習・未習の内容を生かして考えることができるようにになっていった。アンケートの調査対象として選定した商業施設については、社会科の領域で見学に行った「スーパー見学」でお世話になった施設である。アンケート調査を行う活動を通して、国語科の「書くこと」、言語事項の充実を図り、算数科の学習を応用させ、社会科で獲得した学校知を生かすこととなった。

### 3-2-2 韓国の観光客についてのインタビュー調査

完成したアンケートを持ち、7月に商業施設に設置した。児童は家族で買い物に行く経験知や社会科見学で得た毎日の客数といった既存の知識から、1週間目標枚数に達すると予想していた。しかし、回収に行くと20枚程度の回答で、目標枚数にはおよそ到達していないことに気づいた。授業で目標枚数に達するにはどうするのかを話し合い、「設置する時間をもっと長くする」と考えたが、1週間で20枚の回収が、1週間回収期間を延長したことでも目標枚数(300枚)まで到達するとは到底考えられないことを教師側から示唆した。すると、児童から「インタビューに行ってはどうか」と提案があり、校区内、町内の商業施設や商店街に分かれてインタビュー調査することになった。この実践で児童は「電話をかけることが役に立った」と振り返りのインタラクションで答えている。第5学年及び第6学年国語における内容「A話すこと・聞くこと」では「収集した情報を関連付けること」(小学校学習指導要領P24)が大切であるとしているが、児童は、アンケート調査をしたもの回答数が目標枚数に到達できず、ア

ンケート調査を準備する過程で、商業施設の担当者にそのことを電話で報告することで実現したことになる。また、第3学年及び第4学年国語における内容「A話すこと・聞くこと」では「要点をメモすること」「筋道を立てて…適切な言葉遣いで話すこと」（小学校学習指導要領 P. 21）が期待されている。実際にアンケート調査をした時、質問事項に対して回答者が経験や知識を付け加えながら回答する場面があり、児童はその言葉をメモしていた。電話をかけるときも同様に、メモ用紙を準備して必要な事項を書き加えていることからメモをとること、メモをとりながら電話することが役に立ったと感じているのであろう。1学期に電話をかける経験が、その後9月から11月まで取材のお願いや新聞記事の内容確認などで電話をする経験が積み重なり、電話という情報手段を使って相手から約束や承認を得る経験が自分の喜びへと実感したものである。

## おわりに

本研究では、総合的な学習に時間を基軸として、各教科・領域との合科的な指導を意識しながら21世紀型の資質・能力の育成を目指した。「学び」の中に存在する教育的「意図」と学習者の「課題」とが往還し節合する「合科」の場面を明確にしていくところから、実態に沿ったカリキュラム開発の焦点化が可能になる。「意図」が一方的な存在（「教育コード」）にならない配慮が必要であろう。

## 【注】

- (1) 畑島英史・井手弘人(2016)「『21世紀型の資質・能力』をめざす総合的な学習の時間カリキュラム開発—『対馬らしさ』への協同的な思考を深める実践—」長崎大学教育学部附属教育実践総合センター『教育実践総合センター紀要』第15号、pp.279-290
- (2) 文部科学省(2008)『小学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）』東洋館出版社
- (3) 中央教育審議会(2015)『教育課程企画特別部会論点整理』
- (4) 文部科学省(2008)『小学校学習指導要領』
- (5) 吉村敏之(1993)「奈良女子高等師範学校附属小学校における「合科学習」の実践－教師の「学習」概念に注目して－」『東京大学教育学部紀要』第32巻、pp.275-283
- (6) 小針進(2015)「大正新教育運動のパラドックスー通説の再検討を通じてー」日本子ども社会学会『子ども社会研究』第21号、pp.19-32 および柳久雄・川合章編(1962)『現代日本の教育思想戦前編』黎明書房